

○山野 佳則¹, 佐藤 彰彦², 吉田 立², 内藤 陽²

¹塩野義製薬・医薬研究本部, ²塩野義製薬・創薬疾患研究所

顧みられない熱帯病 (neglected tropical diseases, NTD) 等の深刻な感染症疾患は、人類の生命を脅かすものの、製薬企業にとっては大きな利益が期待できないこともあり、十分な治療薬が提供できていない。この課題を解決するために、産学官の連携を強くした取組みやファンドの活用などが積極的に図られている。本講演においては、弊社における NTD 創薬の取組み例を紹介したい。一つ目は、DNDi が中心となって、GHIT fund 等の資金を活用して推進しているリーシュマニア症、シャーガス病に対する治療薬創製を目的とした booster project への参画である。国内外の 5 つの製薬会社が参画し、各社独自の化合物を提供することによって構造の最適化を図るものであり、短期間で多様なアプローチを可能とし、活性の向上が達成できるユニークな試みとなっている。二つ目は、抗結核薬の創薬を目指した TB alliance、結核研究所との 3 者での共同研究であり、GHIT fund を活用して推進している。三つ目は、北海道大学・人獣共通感染症リサーチセンターとの共同研究として、デングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルスなどに対して強い活性を有する化合物を探索している。後者 2 件は、いずれも弊社保有の化合物ライブラリーと共同研究先の高い評価技術を融合することによって強い活性を有する新規骨格の化合物を見出すことに成功している。いずれのケースにおいても、それぞれの特徴を生かしながら協力体制を取ることで新たな成果につながっており、今後のさらなる進展が期待される。